

科目名	相談援助		担当教員	佐藤隆司		
			担当形態	単独		
テキスト	必要に応じて資料を配布する。	単位数 授業形態	1単位	演習	開講時期	後期
<p><b>講義概要</b></p> <p>■到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談援助の意義・必要性を理解し説明する。</li> <li>・相談援助の展開過程などを理解し説明する。</li> <li>・相談援助のための基本的技術（技法）などを習得する。</li> </ul> <p>■授業の概要</p> <p>社会福祉現場の相談（援助）は日常経験する相談とは全く異なる（例えば、明確な困り感がなく、しかし、怠惰な生活を繰り返したり、躰と正当化して子どもを叩く・殴ったりするなどの）ため、実際の複雑困難事例などの場合、相談者（クライアント）に「如何に問題意識を抱かせるか？」は、地道に継続的に相談援助する忍耐と技術と労力を要する。本授業は社会福祉現場の相談援助の展開過程、原則、倫理・価値観などの基本事項とともに、個別援助技術（ケースワーク）、集団援助技術（グループワーク）、コミュニティワークの相談援助技術、問題解決のための情報収集（調査）、アセスメントの視点などを学習、修得する。</p> <p>■授業計画</p> <p>第1回 相談援助の基本① 相談援助を求められる背景、専門性の向上</p> <p>第2回 相談援助の基本② ソーシャルワークの概要、相談援助の歴史</p> <p>第3回 保育士の相談援助とソーシャルワーク① 相談内容の多様化・広範化・複雑化・困難化</p> <p>第4回 保育士の相談援助とソーシャルワーク② 関係機関（相談窓口）の理解</p> <p>第5回 相談援助の展開過程① インテーク、アセスメント、プランニング</p> <p>第6回 相談援助の展開過程② インターベーション、モニタリング、エバリュエーション、ターミネーション</p> <p>第7回 ケースワークの原則① ケースワークの原則</p> <p>第8回 ケースワークの原則② 診断主義、機能主義</p> <p>第9回 面接（相談）力向上のための留意事項① コミュニケーションの双方向性</p> <p>第10回 面接（相談）力向上のための留意事項② 言語コミュニケーションと非言語コミュニケーション、ベISING、距離、位置</p> <p>第11回 面接（相談）力向上のための留意事項③ オープンクエスチョンとクローズドクエスチョン</p> <p>第12回 面接（相談）力向上のための留意事項④ 面接場面における留意事項</p> <p>第13回 期末テスト</p> <p>第14回 総括① 問題解決のためのアプローチⅠ</p> <p>第15回 総括② 問題解決のためのアプローチⅡ</p> <p>■準備学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料は必ず予習・復習して次の授業に繋げる。</li> <li>・積極的に疑問、不明な事項は発言する。</li> </ul> <p>■評価方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業参加、意欲・態度、発言内容、取り組み — 20%</li> <li>・課題提出 — 20%</li> <li>・期末テスト — 60%</li> </ul>						
参考文献	笠師千恵・小橋明子著『相談援助 保育相談支援』中山書店、2014年 若林孔文・長谷川啓三著『よくわかる！短期療法ガイドブック』金剛出版、2000年 宮井研治編『子ども・家族支援に役立つ面接の技とコツ（仕掛ける・さぐる・引き出す・支える・紡ぐ）』明石書店、2012年 川畑 隆編『子ども・家族支援に役立つアセスメントの技とコツ よりよい臨床のための4つの視点、8つの流儀』明石書店、2015年		特記事項	私語、飲食、化粧、途中退室、電子機器使用などは禁止。 【課題等のフィードバック方法】 試験後、模範回答を提示して解説する。		
				卒業・免許状・資格との関連	保育士資格必修 社会福祉主事任用資格選択必修	幼 保